2 ご支援をいただいた皆様へ
「地域と共に生きる企業として」気仙沼ケーブルネットワーク（株）濱田　智

4 PHOTOギャラリー
4 震災前の気仙沼のようす
6 被災した気仙沼の町
10 流された局舎
11 仮局舎の変遷
14 震災から1年が過ぎた気仙沼の風景
16 再スタートを切る気仙沼ケーブルネットワーク

21 「地域と共に生きる」
―2011・3・11東日本大震災から3年　気仙沼ケーブルネットワークの軌跡を綴る
22 プロローグ
24 成り立ち
26 新体制
30 起死回生
34 被災
49 今、再び
52 生かされて
54 エピローグ

57 被災後の経過と出来事
58 2011年3月～5月
60 2011年5月～8月
62 2011年9月～12月
64 2011年12月～2012年3月
66 2012年3月～8月
68 2012年9月～2013年1月
70 2013年1月～5月
72 2013年5月～10月
74 2013年10月～2014年3月

77 K-NETで働く人々
78 スタッフ紹介
80 会社概要

81 資料編
82 気仙沼市の位置と地勢
84 気仙沼市の人口と世帯数
85 気仙沼市の町村合併の変遷
86 気仙沼市の年中行事

87 奥付
88 「東日本大震災～3・11気仙沼の記録～」DVDのご紹介

2

3

4

1～3 震災前の「内湾地区」。海と平地と丘陵とが織り成すリアス式海岸の風景 4 気仙沼ケーブルネットワークの前局舎。元々はスーパーマーケットだったという、160～180坪ほどの平屋建てで、スタジオやヘッドエンドの設備が整い、オープンスペースには老若男女が集い、地域のコミュニティの場として活用されていた

1

プロローグ

２０１１年3月11日午後2時46分、マグニチュード9・0という未曾有の巨大地震が東北地方を襲った。

震源地は三陸沖（北緯38度０６・２分、東経１４２度５１・６分、深さ24㎞）、「東日本大震災」である。この地震による津波は、海面から20ｍを超えたという大津波で、ありとあらゆるものをのみ込み、地域を破壊していった。

宮城県気仙沼市をエリアとするケーブルテレビ局「気仙沼ケーブルネットワーク（株）」は、気仙沼湾から1キロにも満たない位置に局舎を構えていたが、この大津波によって局舎ごと根こそぎすべてが流されてしまった。

30年という長い歳月をかけて、地域と共にその歴史を刻んできた「気仙沼ケーブルネットワーク」が、すべてを失ってしまった瞬間だった。

残ったものは、わずかな伝送路のみ・・・。まさに「無」からのスタートを余儀なくされた「気仙沼ケーブルネットワーク」だが、幸いにも会社を支えてきた役員、そして大切なスタッフたちは、誰一人命を落とすことなく全員無事だった。

「とにかく強くて長い地震でした。社内には私を含めて8人がいて、腰を抜かした人もいました。制作のスタッフは市役所に情報収集に行くため、カメラを持って向かいました」（代表取締役専務 濱田 智）

「あの時は、動物的直感で、〝これはヤバイぞ〟と思いました。大丈夫だから会社に残るというスタッフに、津波がくるかもしれないから、一旦逃げよう。とにかく今日は俺の言うことをきいてくれと拝み倒して皆で逃げました」（同）

専務、津波がきて、会社が流されましたぁ!!

高台で撮影していたスタッフから報告がきたのは、避難したその直後だった。

あれから3年のときを経て、「気仙沼ケーブルネットワーク」が、今まさに新しい歴史を紡ぎはじめた。